

売れる米づくり技術情報No.6

～なんかん米 光る粒張り 粒ぞろい～

令和7年7月17日
J A え ち ご 中 越
なんかん南営農センター

穂肥施用による後期栄養の確保と飽水管理で稲体の活力を維持しましょう！

1. 7月10日現在の水稻生育状況（なんかん南地区管内平均：長岡地区指標値）

- コシヒカリ・こしいぶきともに草丈長い、茎数少ない、葉数並み、葉色並みの状況です。
- 圃場により生育に大きな差があります。生育診断を行って適切な対応をお願いします。
- 気温上昇に伴い葉色の急激な低下がみられる圃場が散見されています。

倒伏に
注意!!



	コシヒカリ				こしいぶき			
	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (L)	葉色 (SPAD)	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (L)	葉色 (SPAD)
いちい地区	74.5	388.9	10.4	36.6	75.0	391.3	11.4	39.3
見附地区	74.3	339.2	11.0	33.6	73.8	431.2	11.4	38.2
中之島地区	76.1	346.5	11.5	33.0	71.5	401.2	12.0	38.4
南地区平均	75.0	358.2	11.0	34.4	73.4	407.9	11.6	38.6
指標値	66.0	450.0	10.7	36.0	66.0	460.0	11.2	37.0
目標比較(%:±)	114%	80%	+0.3	-1.6	111%	89%	+0.4	+1.6
南地区前年値	74.6	444.9	11.4	38.5	75.3	462.1	11.8	41.7

2. 今後の高温により葉色が急速に低下することも予想されます。後期栄養をしっかりと確保するために、施肥体系を考慮し必要な場合は確実に追肥を行いましょ。

- 出穂前10日頃の穂肥は後期栄養を維持するため、窒素成分で1.0～1.5kg/10aを施用しましょう。葉色が薄い圃場は直ちに施用しましょう。
- 元肥一発肥料の圃場でも、葉色が大きく低下している場合は後半の肥切れが心配されますので、出穂10日前頃に穂肥を施用しましょう。

3. 高温が予想される場合には、3回目穂肥の検討をしましょう。

- 出穂前10日以降でも、高温が予想される場合は、下表をめやすに追加穂肥を施用しましょう。

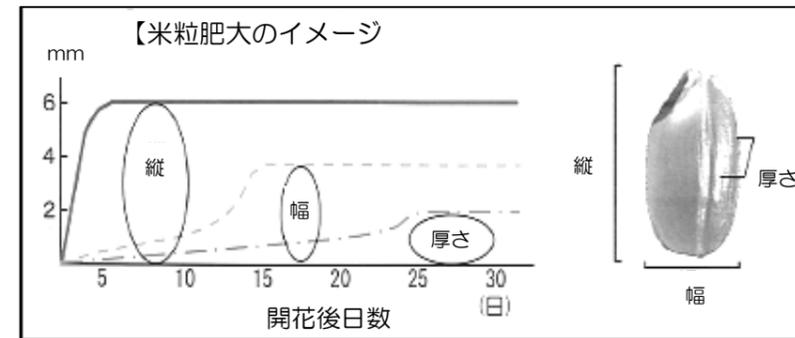
【表・追加穂肥の判断めやす】

施肥体系	追加穂肥の判断条件	追加穂肥の時期と施肥量
分施	出穂6日前の葉色が、 SPAD値33以下(葉色板では単葉で4.4以下) 出穂3日前の葉色が、 SPAD値31以下(葉色板では単葉で4.2以下)	出穂3日前までに、 窒素成分で1.0kg/10aを上限に施用
元肥一発	1回も追肥を行っていない状態で、 出穂期の葉色が、 SPAD値32～33以下(葉色板では単葉で4.3～4.5以下)になる見込み	出穂3日前までに、 窒素成分で1.0kg/10aを上限に施用

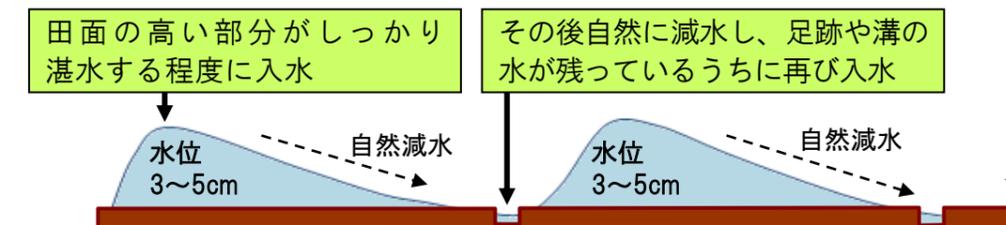
※3割減栽培は化学窒素成分の上限4.9kg、こだわり米(5割減栽培)は上限3.5kgを超えないように計算して施用してください

4. 出穂期前後は飽水管理を徹底し、土壤に十分な水分を保ちましょう。

- 梅雨明け前までは排水対策を行い、地耐力の強化に努めましょう。梅雨明け後は「飽水管理」に移行し、十分な水分を供給しましょう(出穂期前後5日間は水を一番必要とする時期です)
- 玄米の発達は出穂開花後25日以降まで続きます。出穂期25日後までは飽水管理を継続し、土壤に適度な水分を保つことで窒素の発現を促して後期栄養を維持するとともに、白未熟粒の発生を抑えて整粒歩合を高めることができます。



成熟期直前まで登熟は続いているよ。粒張りの良いコメを作るために、飽水管理で圃場に水分を保ってね!



この水管理を繰り返す

図-飽水管理のイメージ

- 夜間給水可能な圃場は夕方入水し、水を効率的に利用しましょう。
- 高温下の常時湛水は根腐れにつながります。自然減水の速度が遅く湛水状態が長く続く圃場では、圃場状況をみながら水の更新を行いましょ。
- 夏場の水管理対策については、裏面をご覧ください。

5. 高温になるとカメムシの活動が活発になります。斑点米による格落ちを防ぐため、水田周辺の雑草管理や水田内の除草、及び適期の薬剤防除を行いましょ。

雑草管理	○ 斑点米カメムシはメヒシバなどの出穂したイネ科雑草を好み、ノビエやイヌホタルイなどの繁茂・結実水田への侵入・増殖を助長します。水稻の出穂後も農道・畦畔の草刈り及び水田内雑草の除草に努めましょう。		
薬剤防除	○ 共同防除実施時期と、出穂期に大きく差がある場合は、追加で個人防除を行いましょ。		
	○ 共同防除で対応していない地域では必ず個人防除を行いましょ。		
	○ 圃場全体に基準量を散布し、粒剤の場合は適正な水深で散布しましょ		
	防除適期	粉・液剤	1回散布の場合 出穂期3日後～10日後
		粒剤	2回散布の場合 出穂期の7～10日後とさらにその7～10日後
			— 出穂期～出穂期7日後

6. いもち病の早期発見に努め、発生状況に応じて適切に防除を行いましょ。

- 管内の新之助栽培圃場でもいもち病の発生が確認されております。
- 葉色が濃いところやいもち病に弱い品種を中心に圃場を見回り、早期発見・早期防除に努めましょう。
- 近年紋枯病の発生が多くなっております。前年発生した圃場は発病しやすくなりますので、早めの防除をお願いします。

異常高温に注意！

夏場の水管理対策

近年、台風の接近に伴うフェーン現象による出穂後の異常な高温で、コシヒカリを中心に心白粒等の白未熟粒が混入し米品質が低下することが多くなっています。

限りある農業用水を効率的に使用し、異常高温から少しでも稲を保護するため、以下を参考にほ場の水管理を行いましょう。

1. 通常時の水管理は「飽水管理」



- (1) 水尻はしっかり止水します。
- (2) 田面の高い部分がしっかり隠れる程度にかん水。
- (3) 入水後は、水尻は止めたまま自然減水。
- (4) 足跡や溝の底に水が残っている状態まで水が減ったら、再びかん水します。
- (5) 出穂 25 日後頃まで、この管理を繰り返します。

かけ流しに注意!!



2. 異常高温が続く場合は「浅水でこまめに入水」

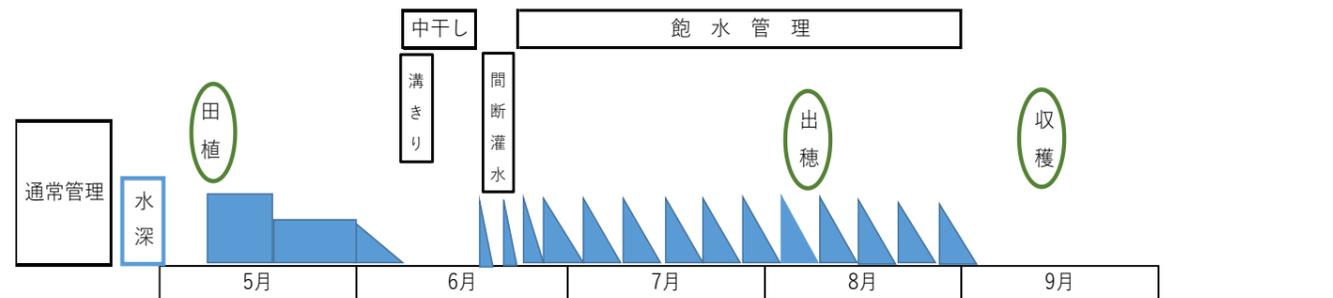
[出穂後、平均気温が 27℃ を超える日が続く場合]

- (1) 通常の飽水管理よりも浅水にし、入水間隔をこまめにします。
- (2) 8月以降異常高温が2日以上続く場合は、水利の状況を見ながら水更新を行い、ほ場の水温上昇を抑えるよう努めましょう。

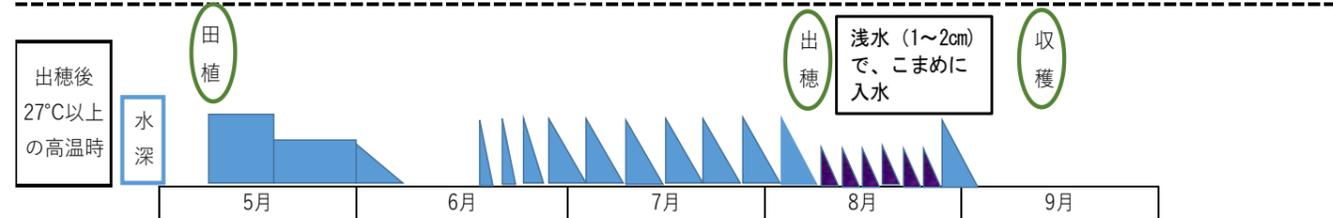
3. フェーン発生時の対応は・・・

- (1) 週間天気予報や台風情報等をもとにフェーンに備えましょう。
- (2) 異常高温や強風フェーンの襲来予想日の2～3日前頃からかん水を行い、水を掛け損ねることのないよう対応しましょう（少なくとも土が湿った状態にしましょう）
- (3) 異常高温収束後は一旦落水し、その後通常時の対応（飽水管理）に切り替えます。

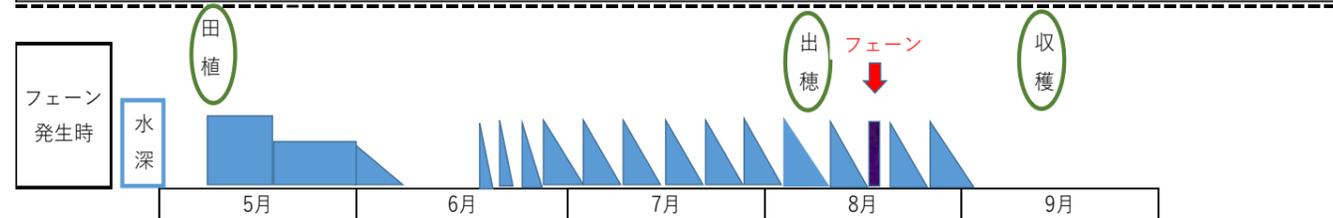
品質確保にむけた水管理のイメージ



[通常の水管理] (田植後：やや深水管理)～(活着後：浅水管理)～(田植後1か月：中干し、中干しは遅くても出穂1か月前に終了)～(中干し後：間断灌水から飽水管理に移行)～(登熟期：飽水管理)～(出穂25日後以降落水)



[出穂後、平均気温が27℃を超える日が続く場合]①通常の飽水管理よりも浅水にし、入水間隔をこまめにする②可能であれば、入水は毎日実施 ※なるべく、ため水にしない! ③高温期間継続 (最低でも出穂後20日間は実施)



[フェーン発生時]①フェーン到着前までに予め湛水する②フェーン通過後は落水③落水後、入水して飽水管理を行う

夏場は用水の使用量が多くなるため、用水路の下流域の水田では水不足が懸念されます。以下の点に留意し、地域全体で効率的に農業用水を使用するよう心がけましょう!

- ① かけ流しは絶対行わない
- ② 暗渠を閉め、水尻をしっかりとめて入水する
- ③ こまめに水回りを行い、入水したら速やかに水口を止める

農業用水は限りある資源です。効率的に農業用水を使用するよう、みんなで心がけましょう。

お米情報専用 LINE の登録はこちら

方法① ID 検索

[友達追加]>[検索]で @287vzxcx を入力

方法② QRコードを読み取る

[友達追加]>[QRコード]で、右のQRコードを読み取る。



【お問い合わせ先】 なんかん南宮農センター米穀課 0258-61-2903